

経営比較分析表（令和4年度決算）

兵庫県 赤穂市

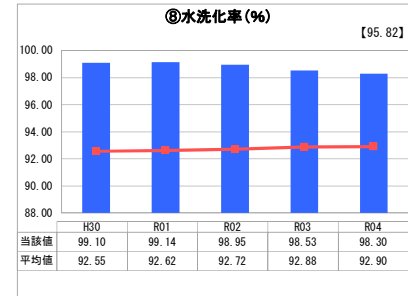
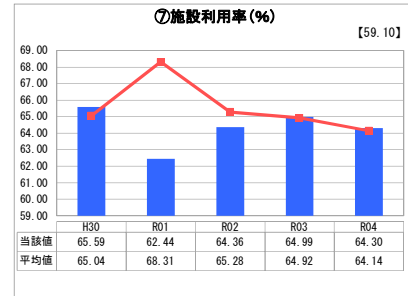
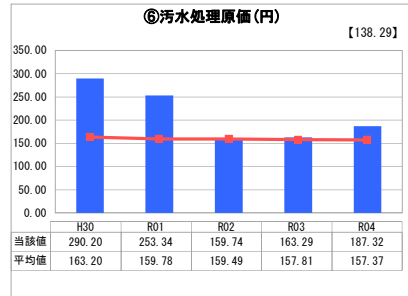
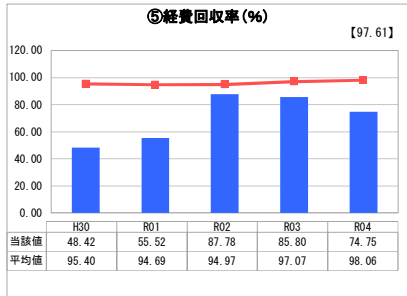
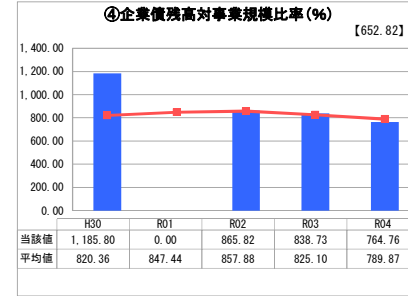
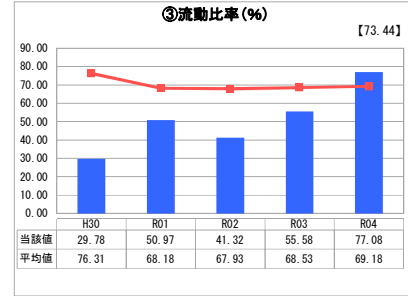
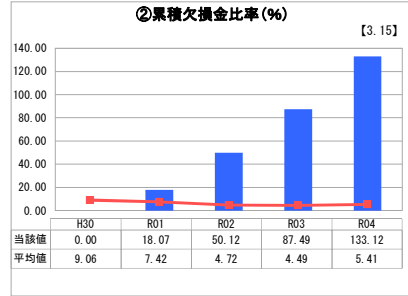
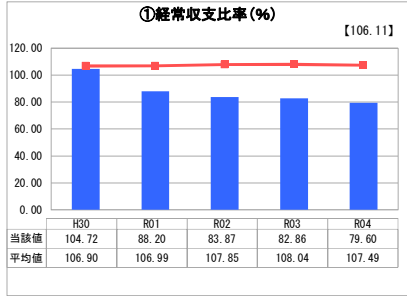
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	61.84	75.20	80.34	2,453

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
45,440	126.85	358.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
33,973	9.88	3,438.56

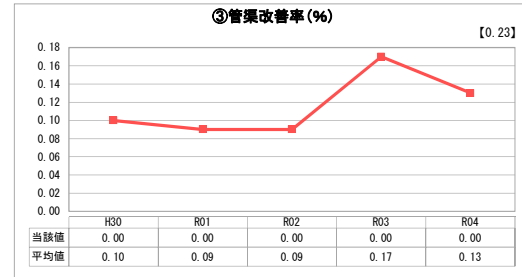
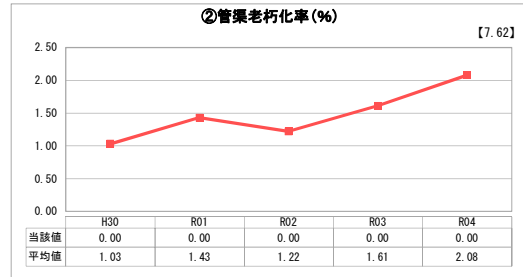
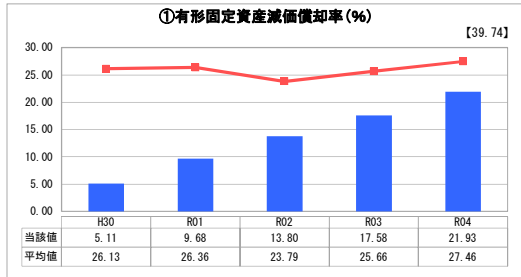
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

汚水処理原価が類似団体の平均値を上回っている。また、経常収支比率は、100%を切っており、類似団体と比較した場合、経費回収率とともに平均値を下回っている。累積欠損金比率も悪化しているなど、健全な経営とは言えない状況にあり、今後も人口減少等により収益が減少する一方、施設等の経年劣化による維持管理費が増加する傾向が続いていくことが見込まれるため、引き続き経営の合理化・効率化を図っていくとともに、使用料水準の妥当性を含めて検討していく必要がある。

注) ④企業債残高対事業規模比率の令和元年度数値が0となっているが、正しい数値は861.03である。

2. 老朽化の状況について

本市の公共下水道事業は昭和56年9月に供用開始しており、令和3年9月に供用開始40年を迎えた。近年は、老朽化した施設の改築更新が課題となっており、令和2年度に策定したストックマネジメント計画に基づき、緊急度の高い処理場・ポンプ場施設の改築更新を計画的に進めているところである。

なお、管渠の改築更新は令和13年度から実施予定である。

全体総括

使用料収入は、特定環境保全公共下水道事業及び農業集落排水事業同様に、近年の人口減少、節水機器の普及等を背景に、減少傾向は続くものと予想される。

これに対し、老朽化した下水道施設の改築更新に係る費用の増加は不可避である。

中・長期的にも厳しい経営状況となることが確実であるが、経営改善を引き続き推し進めることで、安定した経営の実現を目指したい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。